

近江八幡へようこそ

近江八幡市は京都から電車で約 40 分、琵琶湖の南東に位置する小さな都市である。16 世紀後半に城下町として誕生し、20 世紀初頭まで商業の中心地として栄えた。当時の面影を残すコンパクトな旧市街には、昔ながらの商家や土蔵が軒を連ねている。

旧市街地は八幡山の下に位置する。その山頂には 1585 年に城が築かれ、町づくりのきっかけとなった。城主の豊臣秀次（1568-1595）と叔父で当時日本一の武将だった豊臣秀吉（1537-1598）の争い事で、10 年足らずで廃城となった。しかし近江八幡の町は、秀次が始めた自由貿易政策と、琵琶湖に面し、京都と江戸を結ぶ主要な街道の近くにあるという立地の良さから、繁栄を続けていた。秀次が八幡山と城下町の間に関の防御施設として、そして城下町と琵琶湖を結ぶ大動脈として築いた八幡堀は、商人たちが琵琶湖を経由して大都市に品物を運ぶことに使われ、賑わいを見せた。商人たちの勤勉さ、誠実さ、社会貢献は全国に知られるようになった。

20 世紀初頭、近江八幡の商人たちの精神は、アメリカ生まれの建築家であり宣教師でもあったウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880-1964）に受け継がれた。ヴォーリズは近江八幡に永住し、後に街のランドマークとなった多くの建物をデザインした。また、近江八幡に多くの学校や医療施設を設立し、その公共心も高く評価されている。

近江八幡の旧市街は八幡山の麓から南下し、八幡堀を越えて永原町通り、新町通りの商人街へと続く。堀のすぐ北側には、近江八幡の名の由来となった武家の守護神・八幡を祀る日牟禮八幡宮がある。一帯は徒歩でも回りやすく、その一部を八幡堀の船でのんびりと巡ることもできる。八幡山山頂へは、日牟禮八幡宮横の駅からロープウェイで行くことができ、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの生涯と功績は、彼の旧宅であるヴォーリズ記念館で見学することができる。